

佐世保市立図書館の利便性向上について

(答申)

平成28年4月12日

佐世保市図書館協議会

はじめに

平成6年に新館オープンした佐世保市立図書館は、貸出サービスが中心だった時期に建設された。その後、社会における生活環境の変化や情報化の進展に伴い、図書館に求められる役割が貸出中心から、調査、レファレンス、滞在型へと大きく変化しているのが現状である。そのような中で、図書館は平成27年2月にシステム改修を行い、利用者にとって利用しやすい環境を整備するなど、改善可能な部分から取組を実施してきた。

しかしながら、図書館に求める市民の要望が多様化してきた昨今では、予算削減などの要因も加わり、利用者のニーズをすべて反映させることは困難な状況である。

今日、図書館に求められている役割を今一度再確認し、長期的な視点に立ち、公立図書館として目指すべき姿を考える時期が到来していると言える。

このような状況において、佐世保市立図書館長から平成27年11月24日付で「佐世保市立図書館の利便性向上について」の諮問を受けた。

縷々、検討・協議を行った結果、次のとおり答申する。

1. 基本的な方向性

①長期プラン・サービス計画について

先を見据えた計画は、市民と図書館との結びつきや利用の仕方、そして思考力の育成上、必要不可欠である。

図書館の基本的な方向性のひとつとして、人生をより豊かに過ごすことを目指して、特に幼少期から子どもたちが本好きになるような図書館でありつづけるためには「読書大好き佐世保っ子プラン」と連携した、長期的展望に立脚した計画を策定することも重要である。

2. 運営方針

①開館日・開館時間について

利用者及び市民の利用を促進するには、利用者及び市民の多様な生活時間等に配慮する必要がある。そのため図書館を利用したい時に利用できる機会の拡大が求められている。

このようなことから、開館時間については、夜間開館を現状の木曜日・金曜日実施から拡大する方向で検討すること。

また、子どもたちの利用が多い夏休みなどにおける開館日の増加や祝日も開館するなど、開館日の拡大に向けた方策を検討すること。

②新規利用者について

様々な世代の市民が何らかの問題意識や目的があって図書館を利用する。

図書館が生活や仕事、地域の課題解決に役立つ情報を提供していることを広くPRすることにより、これまで図書館を利用したことのない市民にとっても、支持される図書館となる。

また、現在実施しているブックスタート事業などで、乳幼児期から取組を継続することにより、将来的に図書館の利用者増も期待できる。

さらに、図書館と学校、学生が連携することにより、図書館に足を運ぶ機会を形成することができる。

子どもたちや若者に対する居場所の提供が求められていることを踏まえ、将来を見据えた利用者の拡大につながるような事業の展開に努めること。

③学校支援について

本に親しむ環境づくりをすることで、子どもたちは本をより好きになる。

子どもたちが本と出会い、そして成長できるような、本を読む機会を充実させることが大事である。そのひとつが学校図書館であるが、学校図書館と市立図書館が連携することにより、学校図書館としての役割が大きくなり有意義なものとなる。子どもに親しまれ、積極的に利用される市立図書館であるために、学校に対する支援の充実を図る必要がある。

3. 業務面における改善

①資料について

予算が厳しい情勢のなかでは十分に資料を購入することは難しいのが現状である。

しかしながら、資料を収集し、提供することは、図書館の最たる役割であることから、可能な限り予算の確保に努め、資料の充実を図ること。

②図書館職員について

図書館は、長年にわたる実務経験と専門的な知識を要する職場であることから、長期的に専門性のある職員を配置し、ノウハウを蓄積すること。

また、職員研修を充実させ、職員の質と意識を高めるような環境づくりを進めること。

③郷土研究について

郷土資料室には、佐世保に関する資料が多数保管されているが、佐世保に長く住んでいる人でも地元の歴史を知らない人が多い。また、定期的に発表会などを実施しているが、参加者層が限定されている。

このようなことから、若い世代の人たちの関心を引くような取組も検討すること。

4. 施設面における改善

①返却場所について

本を借りる際は、駐車場が混んでいても図書館へ足を運ぶものの、返すだけの時には、不便さを感じる。したがって、様々な場所で返却できると利用しやすくなるため、地区公民館に限らず、返却場所の増設を推進することが求められる。

②駐車場について

駐車スペースは限られており、利用したい時に利用できない状況が生じている。中には、長時間利用している方や目的外の方もいることから、少しでも効率良く駐車場を活用するには、一定時間を超えた場合は、公共施設における受益者負担として、将来的に有料化を検討すべきである。

③座席について

限られたスペースの中で、座席数が不足している現状から、可能なエリアに椅子を追加するなど、できることから早急に着手すること。

また、視聴覚室の開放については、特に講座室の利用者が増加する時期には効果的な手段であるため、活用を検討すること。

おわりに

急速に変化する社会情勢の中で、図書館に対する市民のニーズも多様化し、より専門化している。様々な要望を実現させるためには、予算が伴う改革を要するが、それは非常に大変なことである。しかし、そこで立ち止まってしまえば、図書館としての成長は望めない。

そのような状況において、公立図書館としての理念や役割を持続しつつ、なおかつ現代社会に適合する図書館へと変革していくことが重要である。

本市の財政状況にも配慮し、市民からの期待を真摯に受け止め、その利便性の向上に努めることが求められる。

今回提案した内容が、利便性向上に向けた手段の全てではなく、今後も引き続き検討が必要である。

審議日程

第1回 平成27年11月24日

第2回 平成28年1月18日

第3回 平成28年3月18日